

教科・科目名：国語総合 （漢文・高校からの入学生）			
履修学年・対象	1年	共通	1単位
使用教科書	出版社：第一学習社 名称：新訂 国語総合 改訂版(古典編)		
副教材 (授業で使用)	出版社：尚文出版 名称：必携 新明説漢文		
	第一学習社 ニューエイジ漢文 必修2		
授業の目標・ 内容・進め方	<p>簡単な漢文を読み下す力を身につけることによって、日本語の語彙を豊かにすることを目標とする。具体的には、まず第一に、訓点の施し方、再読、返読、助字等のルールを身につける。第二に、疑問、受身、使役等の基本句形を、第三に唐詩のルールを学習する。</p> <p>その上で、故事、史伝等の漢文を解釈していく。以上をドリルの演習を交えながら進める。</p>		
授業計画	4月	故事成語訓読の方法(構文・訓点・再読・返読・助字)	
	5月	故事成語、史伝 基本句形(否定形、再読文字)	第1回試験
	6月	史伝、基本句形(疑問、反語)	
	7月	史伝、基本句形(使役形、受身形)	第2回試験
	夏休	基本句形の理解	
	9月	史伝、基本句形(総復習)	
	10月	史伝、基本句形(仮定形、比較選択、限定累加)	第3回試験
	11月	唐詩(句形の復習)	
	12月	唐詩(句形の復習)	第4回試験
	1月	史伝、基本句形(詠嘆・願望)	
	2月	史伝、基本句形(抑揚、倒置)	
	3月	句形の総復習	第5回試験

教科・科目名：国語総合（漢文・中学からの進学生）			
履修学年・対象	1年	共通 1単位	
使用教科書	出版社：第一学習社	名称：新訂 国語総合 改訂版(古典編)	
副教材 (授業で使用)	出版社：尚文出版	名称：必携 新明説漢文(中学時購入済み)	
	第一学習社	ニューエイジ漢文 達成2+	
授業の目標・ 内容・進め方	副教材の「ニューエイジ漢文 達成2+」に副って進めていく。既習事項である重要句形を確認しながら、長文に慣れ、事柄の関係性をスムーズに把握して、設問ができるようになることを目的とする。「ニューエイジ漢文 達成2+」が終わったら、プリントで漢文の名文と称される文章を読み進めていく。		
授業計画	4月	基本句形の総復習	
	5月	基本句形の総復習 故事成語、史伝	第1回試験
	6月	史伝	
	7月	史伝	第2回試験
	夏休	基本句形の理解	
	9月	史伝、基本句形(総復習)	
	10月	史伝	第3回試験
	11月	唐詩(句形の復習)	
	12月	唐詩(句形の復習)	第4回試験
	1月	史伝	
	2月	史伝	
	3月	句形の総復習	第5回試験

教科・科目名：国語総合(現代文)			
履修学年・対象	1年	共通	2単位
使用教科書	出版社：第一学習社 名称：新訂 国語総合 改訂版(現代文編)		
副教材 (授業で使用)	出版社：京都書房 名称：新国語総合ガイド五訂版		
	明治書院 現代評論文選 新版		
	Z会出版 現代文キーワード読解 改訂版		
授業の目標・ 内容・進め方	現代文は、基本的に正確に読むこと、そして正確にまとめること、さらに自分の意見を書くことという3つを基本としている。予習が重要であるので、こころして取組んでほしい。そのほかに社説ノート、読書マラソン、読書ラリー、コラムコンクール(毎月)、エッセイ作文コンクールへの応募、漢字検定など、さまざまなプログラムを用意している。常に積極的な姿勢で学習に臨んでほしい。成績については試験だけでなく、そういった取組み全てを考慮してつける。		
授業計画	4月	評論「手を見つめる」など身体論	
	5月	評論「コトバと文化」など記号論	第1回試験
	6月	現代小説・センター小説など	漢検①
	7月	記号論・言語論	第2回試験
	夏休		
	9月	評論「過去と言語」	
	10月	近代詩・近代短歌 「現代学生百人一首」	第3回試験
	11月	評論「新しい科学者像への胎動」など近代科学論	漢検②
	12月	小論文・小説 「こころ」	第4回試験
	1月	小論文 漢検③ 小論文模試 「伊藤園新俳句」	
	2月	評論 言語論、身体論、メディア論など	
	3月	評論 大学入試問題演習	第5回試験

教科・科目名：国語総合（古文・高校からの入学生）			
履修学年・対象	1年	共通 2.5単位	
使用教科書	出版社：第一学習社	名称：新訂 国語総合 改訂版(古典編)	
副教材 (授業で使用)	出版社：京都書房	名称：新修 古典文法 二訂版	
	日栄社	新・古典文法Lノート	
	Z会出版	頻出古文単語400 改訂版	
授業の目標・ 内容・進め方	<p>様々な種類の古文の読解とその為の文法力、単語力を養成します。そのためには予習が必須です。また、モーニングレッスンでは文法を中心に、単語などを集中して学びます。古典を学ぶ中で現代との接点を見出し、自らの生き方に還元していくことを希望します。</p> <p>なおこの1年間で、主な文法事項はほぼ終わります。ひとつひとつ確実に身につけないとあとで困ることにもなります。是非、分からないところは質問する姿勢を持って授業にのぞんでください。単語は授業であつかったものは全て覚え、単語集も活用しましょう。試験では初見の文章も出題します。</p>		
授業計画	4月	説話(宇治拾遺物語)など【古典的仮名遣い・文法の基礎】	
	5月	説話、物語(竹取物語)など【動詞の活用】	第1回試験
	6月	物語、日記(伊勢物語)など【形容詞の活用】	
	7月	物語、日記(伊勢物語)など【助動詞の活用】	第2回試験
	夏休	文法の総復習・後期の予習	
	9月	随想(徒然草)など【助動詞の活用・意味】	
	10月	随想(徒然草)など【助詞・紛らわしい語の識別】	第3回試験
	11月	物語(土佐日記)など【敬語法など】	
	12月	説話(十訓抄)など【古典常識】	第4回試験
	1月	和歌(万葉、古今、新古今)【和歌の修辞】	
	2月	和歌(万葉、古今、新古今)	
	3月	入試問題演習など	第5回試験

教科・科目名：国語総合(古文・中学からの進学生)			
履修学年・対象	1年	共通 2単位	
使用教科書	出版社：第一学習社	名称：新訂 国語総合 改訂版(古典編)	
副教材 (授業で使用)	出版社：京都書房	名称：新修 古典文法 二訂版(中学時購入済み)	
	日栄社	新・古典文法Lノート(")	
	Z会出版	頻出古文単語400 改訂版(")	
授業の目標・ 内容・進め方	<p>様々な種類の古文の読解とその為の文法力、単語力を養成します。そのためには予習が必須です。古典を学ぶ中で現代との接点を見出し、自らの生き方に還元していくことを希望します。</p> <p>なおこの1年間で、主な文法事項はほぼ終わります。ひとつひとつ確実に身につけないとあとで困ることもなります。是非、分からないところは質問する姿勢を持って授業にのぞんでください。単語は授業であつかったものは全て覚え、単語集も活用しましょう。なお、教科書の他に副読本を用い、文法の知識を活用して、読解する取り組みが多くなります。自主的に取り組む姿勢が重要です。古語辞典は必携で取組んでください。</p>		
授業計画	4月	説話宇治拾遺物語など 文法の復習・読解法の確認	
	5月	説話、伊勢物語など 品詞分解・読解法の確認	第1回試験
	6月	物語、伊勢物語など 敬語法の確認・和歌の読解	
	7月	物語、伊勢物語・宇治拾遺物語など	第2回試験
	夏休	文法の総復習・後期の予習	
	9月	伊勢物語など 和歌・読解法	
	10月	土佐日記など 読解法の確認	第3回試験
	11月	土佐日記など 読解法の確認	
	12月	枕草子など 敬語法の確認	第4回試験
	1月	和歌(万葉、古今、新古今) 【和歌の修辞】	
	2月	和歌(万葉、古今、新古今)	
	3月	入試問題演習 【既習文法事項の総復習】	第5回試験

教科・科目名：現代社会

履修学年・対象	1年	共通	2単位	
使用教科書	出版社：帝国書院	名称：新現代社会		
副教材 (授業で使用)	出版社：帝国書院	名称：ライブ！現代社会2019		
	『ニューコンパスノート現代社会2019』			
授業の目標・ 内容・進め方	<p><目標>現代の社会の基本的な仕組みや問題点を知り、これからの社会がどうあるべきか、その中で私たちがどのように生きていくべきかを考える。ディベート学習を通して、情報を収集・整理し、議論を組み立てる力を養う。</p> <p><特徴>生徒の活動中心の授業。前期は、模擬選挙に向けた政策調べを中心に行う。後期は様々な論題についてのディベート学習が中心。活動の前後で、補足的な講義を行う。</p> <p>活動中心に行う分、講義の回数が減る。講義で説明しきれない部分を補うために穴埋め式のワークノートを配布する。テストは、講義内容だけでなくワークノートからも出題するので、計画的にワークノートの学習に取り組むこと。</p>			
課題・提出物	発表やディベート関連の提出物、年間二回のレポート提出(長期休暇後)など			
授業計画	4月	民主政治・立憲主義		
	5月	もう一度日本国憲法！	第1回試験	
	6月	政治・政策の課題を調べよう！		
	7月	模擬選挙に取り組もう！	第2回試験	
	9月	選挙制度を構想しよう！		
	10月	第1回ディベート(身近なお試し論題)	第3回試験	
	11月	第2回ディベート(死刑・ベーシックインカム・消費税・安楽死を予定)		
	12月	世界の課題を考えよう(貿易ゲーム・21世紀の世界)	第4回試験	
	1月	ディベート準備		
	2月	第3回ディベート(核兵器・集団的自衛権・温暖化対策・原発を予定)		
	3月		第5回試験	
	長期 休暇	夏期:現代社会に関する読書レポート		
		冬期:現代社会に関する読書(or映画視聴)レポート		

教科・科目名：世界史A

履修学年・対象	高校 1年	共通	2 単位	
使用教科書	出版社：帝国書院	名称：明解 世界史A		
副教材 (授業で使用)	出版社：浜島書店	名称：ニューステージ 世界史詳覧		
授業の目標・ 内容・進め方	<p>我々が生きているこの時代と空間には、過去の因果関係がどう働いているのか。また、今後の展望にどうつながるのか。そこには政治や経済、社会や文明・文化など、様々な要因が関わっている。それら歴史の総合的な認識の基本を身につけたい。19世紀以降の近・現代史を学びながら、特に「20世紀」とはどのような時代であったのかを考えていきたい。</p> <p>通史を軸にしつつ、史資料の読み取りやテーマ学習、グループワークなど様々な活動を行う予定である。ここで身に付く力や考え方は、文理問わず将来の糧になる。奮って参加してほしい。</p>			
課題・提出物	夏休み、冬休みにレポートを課す。ノートなどで学習状況を確認し、アドバイスする機会を設ける。			
授業計画	4月	アメリカの独立まで(黒人奴隷問題を中心に)		
	5月	産業革命とその影響、アメリカ独立	第1回テスト	
	6月	フランス革命とナポレオン		
	7月	ウィーン体制とラテンアメリカ	第2回テスト	
	9月	19世紀のフランス(七月・二月革命、第二帝政)		
	10月	日本から見た19世紀の欧米(岩倉使節団)	第3回テスト	
	11月	ドイツ・イタリアの統一(ナショナリズムと絡めて)		
	12月	19世紀のアメリカ、ロシア	第4回テスト	
	1月	19世紀西アジア諸国のナショナリズム		
	2月	帝国主義		
	3月	第一次世界大戦	第5回テスト	
	長期 休暇	夏休み	新書レポートもしくは博物館レポート	
		冬休み・入試休み	新書レポート	

教科・科目名 : 数学 I (高校からの入学生)			
履修学年・対象	1 年	共通 3 単位	
使用教科書	出版社: 数研出版	名称: 数学 I, II	
副教材 (授業で使用)	出版社: 数研出版	名称: 4STEP 数学 I +A、数学 II +B(GLのみ)	
	出版社: 数研出版	名称: データの分析ノート(GLGS)	
	出版社: 数研出版	名称: チャート式 基礎からの数学 I +A、II +B(青チャート GSのみ)	
授業の目標・ 内容・進め方	<p>数学 I, 数学 II, 数学 III という微分積分につながる流れの中で2,3年次における数学の基礎となる内容を多く扱う。科目名は数学 I だが, 前倒して数学 II の内容の複素数と方程式, 図形と方程式, 指数関数と対数関数も学習する。2次関数は高校数学の土台となる内容ゆえ徹底理解を目指し, 定期考査等において成績下位者に指導を行う。</p>		
授業計画	4月	数 I 数と式	
	5月	数 I 数と式 / 命題と論証	第1回試験
	6月	数 I 命題と論証 / 2次関数	
	7月	数 I 2次関数	第2回試験
	夏休		
	9月	数 I・II データの分析 / 複素数と方程式	
	10月	数 II 複素数と方程式	第3回試験
	11月	数 II 複素数と方程式	
	12月	数 II 図形と方程式	第4回試験
	1月	数 II 図形と方程式	
	2月	数 II 指数関数と対数関数	
	3月	数 II 指数関数と対数関数	第5回試験

教科・科目名 : 数学 I (中学からの進学生)			
履修学年・対象	1年	共通 3単位	
使用教科書	出版社: 数研出版	名称: 数学 II	
副教材 (授業で使用)	出版社: 数研出版	名称: 4STEP数学 II + B (GLのみ)	
	出版社: 数研出版	名称: チャート式 基礎からの数学 II + B (青チャート GSのみ)	
授業の目標・ 内容・進め方	数学 I, 数学 II, 数学 III という微分積分につながる流れの中で, 今後多く扱うことになる, さまざまな関数を履修する。科目名は数学 I だが, 数学 I の内容は中学で学習済みなので, 前倒して数学 II の内容を中心に学習する。また, 教科書の数学 II で扱う内容は文理を問わず, 徹底理解を目標となる。家庭学習は必須である。定期考査等において, 成績下位者対象に指導を行う。		
授業計画	4月	数 II 複素数と方程式	
	5月	数 II 複素数と方程式	第1回試験
	6月	数 II 図形と方程式	
	7月	数 II 図形と方程式	第2回試験
	夏休		
	9月	数 II 図形と方程式	
	10月	数 II 三角関数	第3回試験
	11月	数 II 三角関数	
	12月	数 II 三角関数	第4回試験
	1月	数 II 三角関数 / 指数関数・対数関数	
	2月	数 II 指数関数・対数関数	
	3月	数 II 指数関数・対数関数	第5回試験

教科・科目名 : 数学A (高校からの入学生)			
履修学年・対象	1年	共通 3単位	
使用教科書	出版社: 数研出版	名称: 数学 I, A, II	
副教材 (授業で使用)	出版社: 数研出版	名称: 4STEP数学 I + A, II + B(GL)	
	数研出版	チャート式基礎からの数学 I + A, II + B(GS)	
授業の目標・ 内容・進め方	数学 I, 数学 II, 数学 III という微分積分につながる流れの中で2,3年の基礎となる内容を扱う。科目名は数学Aだが, 数学Aの内容以外にも, 数学 I の「図形と計量」「データの分析」と数学 II の「式と証明」「三角関数」を前倒して学習する。定期考査等において, 成績下位の者を対象に補習を行う。		
授業計画	4月	数A 図形の性質	
	5月	数A 図形の性質 / 数学 I 図形と計量	第1回試験
	6月	数 I 図形と計量	
	7月	数 I 図形と計量	第2回試験
	夏休		
	9月	数A 場合の数と確率	
	10月	数A 場合の数と確率	第3回試験
	11月	数A 整数の性質	
	12月	数A 整数の性質	第4回試験
	1月	数 II 式と証明	
	2月	数 II 三角関数	
	3月	数 II 三角関数	第5回試験

教科・科目名 : 数学A (中学からの進学生)			
履修学年・対象	1年	共通 3単位	
使用教科書	出版社: 数研出版	名称: 数学A, B	
副教材 (授業で使用)	出版社: 数研出版	名称: 4STEP数学 I + A, II + B(GL)	
	数研出版	チャート式基礎からの数学 I + A, II + B(GS)	
授業の目標・ 内容・進め方	<p>数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲという微分積分につながる流れの中で, 2, 3年次における数学の基礎・土台をつくる。科目名は数学Aだが, 前倒しで数学Bの内容(数列)を学習する。数学Ⅰに比べ, 論理的な思考力や数学的表現力が求められる科目である。粘り強い姿勢で学習に臨んでほしい。家庭学習が必須であり, 副教材などを使って復習すること。成績下位の者対象に補習を行う。</p>		
授業計画	4月	数Ⅱ 式と証明	
	5月	数A 図形の性質(空間)	第1回試験
	6月	数A 整数の性質	
	7月	数A 整数の性質	第2回試験
	夏休		
	9月	数B 数列	
	10月	数B 数列	第3回試験
	11月	数B 数列	
	12月	数B 平面ベクトル	第4回試験
	1月	数B 平面ベクトル	
	2月	数B 空間ベクトル	
	3月	数B 空間ベクトル	第5回試験

教科・科目名：化学基礎

履修学年・対象	1年	共通	2単位
使用教科書	出版社：啓林館	名称：化学基礎	
副教材 (授業で使用)	出版社：実教出版	名称：サイエンスビュー化学総合資料	
	第一学習社	2019セミナー化学基礎	
	数研出版	フォローアップドリル化学基礎－物質の構成と化学結合－	
	数研出版	フォローアップドリル化学基礎－物質質量・化学反応式－	
授業の目標・内容・進め方	<p>1年次化学では、身の回りの物質，現象を化学的に捉え、考察できることを目標とする。</p> <p>まず、「物質の状態」「物質の構成粒子」「化学結合」「物質質量」を体系的に学ぶ。これらは化学の土台とも言える重要な分野である。この分野は特に、習うより慣れよ、身につくまで繰り返し復習することが大切である。続いて、「酸と塩基」を学ぶ。わからない所は教科書、資料、参考書をよく読み返すこと。</p>		
課題・提出物	通常授業課題、長期休暇課題、実験レポートなど		
成績評価の方法	定期試験約80%、課題・提出物・授業態度評価約20%		
授業計画	4月	第1部 第2章 物質の状態	
	5月	物質の状態	第1回試験
	6月	第2部 第1章 物質の構成粒子	
	7月	第2章 化学結合	第2回試験
	夏休		
	9月	化学結合	
	10月	第3部 第1章 物質質量と化学反応式	第3回試験
	11月	物質質量と化学反応式	
	12月	第2章 酸と塩基	第4回試験
	1月	酸と塩基	
	2月	酸と塩基	
	3月	酸と塩基	第5回試験

教科・科目名：物理基礎			
履修学年・対象	1年	共通 2単位	
使用教科書	出版社：数研出版	名称：物理基礎	
副教材 (授業で使用)	出版社：第一学習社	名称：セミナー物理基礎＋物理	
	数研出版	名称：フォトサイエンス物理図録	
	数研出版	名称：リードLightノート物理基礎	
授業の目標・内容・進め方	<p>1年次の物理基礎では三角比、ベクトルの合成などを含めた数学的な能力を問題演習によって養いつつ1年間を通して古典力学の基礎となる『力学』について学習する。GS、GLコースで大きな進度の差はないが、GSコースでは、より発展的な問題演習に取り組む。特に運動方程式、運動量保存則、力学的エネルギー保存則は、力学における最重要項目として実験なども行い、徹底理解を目標とする。また、2年次以降選択する「物理」の内容も盛り込みながら、斜方投射や円運動、剛体のつり合いなど発展的な内容も含め、力学の内容を系統的に学習する。</p> <p>授業はプリントを中心に展開する。各項目の境目で理解促進のための抜き打ちテストや、授業内容の確認テストを実施する。</p>		
課題・提出物	通常授業課題、各種小テスト、長期休暇課題、実験レポート等		
成績評価の方法	定期試験7～8割、課題提出物2～3割の割合で評価する		
授業計画	4月	速さと速度(ベクトルとスカラー) 三角比、等加速度直線運動	
	5月	速度の合成と分解、相対速度、自由落下、水平投射、斜方投射	第1回試験
	6月	いろいろな力	
	7月	運動の3法則、運動方程式	第2回試験
	9月	力のつりあい 剛体(力のモーメント)	
	10月	運動量と力積 運動量保存則	第3回試験
	11月	運動量保存則	
	12月	仕事と仕事率	第4回試験
	1月	力学的エネルギー エネルギー保存則	
	2月	エネルギー保存則、円運動	
	3月	円運動	第5回試験
	長期休暇	問題演習	

教科・科目名 : Academic Writing Preparation for University Entrance Exams

履修学年・対象	1年	共通	2単位
使用教科書	出版社：ブリティッシュ・カウンシルオリジナル教材		
副教材 (授業で使)	出版社：プリント教材他		
授業の目 標・内容・進 め方	<p>大学入試のライティング対策を目的としたアカデミックライティングコースです。総合的な書く力を伸ばし、自信を持って大学入試におけるライティング問題に取り組めるようになることを目標とします。</p> <p>ブリティッシュ・カウンシルの英語講師によるオールイングリッシュの授業ですので、英語で話し、書くことが求められます。受講生同士が協力して学ぶことが求められ、モチベーションを保ちながら学習をします。授業では「形式的アプローチ」と「実践的アプローチ」2つの要素を合わせたライティング指導を行います。「形式的アプローチ」では、模範文の分析を通して文の構成や言語表現などの知識をつけます。「実践的アプローチ」では、協働学習、ディスカッション、意見の集約などを行い、構成だけではなく内容に重きをおいた学習を行います。ライティング課題をこなし、添削された課題を書き直すことにより次の段階に進む前に誤りに気づき、書く力をつけていきます。</p>		
授業計画	4月	Words, sentences and short paragraphs	
	5月	Describing places- prepositions, articles, singular and plural	
	6月	Describing objects- using adjectives	
	7月	Explaining tasks	ライティング課題

教科・科目名 コミュニケーション英語 I GL GS共通

履修学年・対象	1年	共通	3単位		
使用教科書	出版社: Z会出版	名称: NEW TREASURE 4			
副教材	出版社: Z会出版	名称: NEW TREASURE 4 WORKBOOK			
	出版社: Z会出版	名称: 速読英単語(必修編)			
	出版社: 数研出版	名称: チャート式 基礎からの新々総合英語			
授業の目標・内容・進め方	<p>◆目標: ①読解力(精読力・速読力) ②類推力 ③語彙力</p> <p>◆内容及び進め方: I 速読 パラグラフリーディング: 「1パラ1内容」= 英文はパラグラフ(段落)に区切られており、内容が変わればパラグラフも変わる。①パラグラフ毎に概要をつかみながら②英文全体を通してザックリと読む。まずは全体的な論理展開をつかむことが大切である。③その際「スラッシュ」を入れながら言葉の「意味のかたまり」をつかもう。音読の際にはこのかたまり毎に切れ目を入れて読む。各パラグラフの中にはトピックセンテンス(情報として最重要な文)が存在する。それを見つけることが読解の全てである。④トピックセンテンスを見つけたらその英文はじっくり頭の中で考えよう。⑤パラグラフの要約はこのトピックセンテンスが必要になってくる。</p>				
授業計画	4月	L.1 Crossing the Alps by Rail	↑ ↓		
	5月	L.2 The Hero Who Refused to Be a Hero		第1回試験	
	6月	L.3 Different Styles of Encouragement			
	7月	L.4 Biodiversity		随時河合・駿台・進研などの模試対策を入れていきます。	第2回試験
	夏休				
	9月	L.5 Curling			
	10月	L.6 Popularity Breeds Popularity		第3回試験	
	11月	L.7 Excuted, But Not Proved Guilty?			
	12月	L.8 False Faces		第4回試験	
	1月	L.9 Pitfallsin Speech			
	2月	L.10 The History of Maps			
	3月	L.11 The Health Gap in Australia		第5回試験	

教科・科目名：英語演習 I GL GS共通			
履修学年・対象	1年	共通 1単位	
使用教科書	出版社: EMILE	名称: CROSSBEAM	
副教材 (授業で使用)	出版社: 数研出版	名称: チャート式 基礎からの新々総合英語	
授業の目標・ 内容・進め方	この授業では、「コミュニケーション英語」、「英語表現」での学習(基本練習と応用練習)をふまえ、英検2級・準1級、センター試験レベルを目標として、読解の演習を行います。試験に必要な知識の定着と解答力の養成を図り、得点力アップと英検合格(高2終了時まで準1級)を目指します。		
授業計画	4月	CROSSBEAM (プリント)	
	5月		第1回試験
	6月		
	7月		第2回試験
	夏休		
	9月		
	10月		第3回試験
	11月		
	12月		第4回試験
	1月		
	2月		
	3月	↓	第5回試験

教科・科目名：英語表現 I GLGS共通

履修学年・対象	1年	共通	2単位	
使用教科書	出版社：三省堂	名称：Crown English Expression I		
副教材 (授業で使用)	出版社：数研出版	名称：チャート式 基礎からの新々総合英語		
	出版社：数研出版	名称：Steady Steps to Writing		
	出版社：日栄社	名称：発展演習 英作文		
	出版社：数研出版	名称：Play On		
	出版社：いいずな書店	名称：英文法・語法 Vintage		
授業の目標・ 内容・進め方	<p>目標：①定型文の定着＝使って書く力 ②構文力 ③発想力 ④演習量確保 中学英語の復習・整理をしながら、さらに表現の幅を広げる細かな高校英語を学ぶ。英語表現は単語と同様、言語の四技能「聞く」「話す」「読む」「書く」すべてに必要である。実際に「使うための英文」ということを意識して学習に取り組むことによって、はじめて定着する＝使えるようになる。そのためには、実際に書くことが重要であり・有効であることから、この授業では新しく学んだ事項を用いて英語表現をすることを徹底して行う。</p> <p>同時に、大学進学を目指す皆さんにとっては、入試問題を解くための演習という側面が加わってくる。問題集での演習を通じ、入試で必要とされる力は何かを把握し、解答力を養成する。授業には教科書・参考書・辞書・ノートすべてを持参すること。</p>			
授業計画	4月	第1章 文の種類・文の構造		
	5月	第2, 3章 時制	第1回試験	
	6月	第4章 助動詞・第5章 動詞の態		
	7月	第5章 動詞の態	第2回試験	
	夏休			
	9月	第6, 7章 不定詞	※新々総合英語の進度合わせながらSteady Steps to WritingとVintageも利用する。	
	10月	第8章 動名詞		第3回試験
	11月	第9章 分詞		
	12月	第10, 11章 比較	第4回試験	
	1月	第12, 13章 関係詞		
	2月	第14章 仮定法		
	3月	第15章 話法	第5回試験	

教科・科目名： 体育			
履修学年・対象	1 年	共通	3 単位
使用教科書	出版社：大修館書店 名称：最新高等保健体育		
副教材 (授業で使用)	出版社： 名称：		
授業の目標・ 内容・進め方	男女共、種目ごとに運動特性、技能構造が異なるのでそれぞれの種目に対しての理解を深め、楽しさ、記録が向上する達成感を味わって欲しい。球技・陸上競技・水泳等の各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。球技では、道具を使うことにより、ボールなどの対象物に与えられる速度が変わるので、道具の形状や大きさ、質量等の違いによる技能の違いや楽しみ方の違いも味わって欲しい。水泳や陸上競技では、生涯を通じて健康な身体を作っていく基礎知識を学んでいくとともに、記録向上の達成や競争の楽しさも味わう。		
課題・提出物	各種目見学者はレポート提出		
成績評価の方法	平常点(積極性・意欲・態度)20～40%。運動技術の習熟度、知識とその理解60～80%(各種目配分)。		
授業計画	男子	女子	
4月	球技大会練習	球技大会練習	
5月	} 体づくり運動 スポーツテスト 水泳(クロール・平泳ぎ) バレーボール ハンドボール	} 体づくり運動 スポーツテスト 水泳(クロール・平泳ぎ) ソフトボール 器械体操(マット)	実技テスト
6月			記録会
7月			
夏休			
9月			実技テスト
10月	} バasketボール 高跳び・砲丸投げ 卓球 時間走・4km走 サッカー 体育理論	} 硬式テニス 卓球 筋力トレーニング 時間走・3km走 Basketボール 体育理論	
11月			
12月			実技テスト
1月			記録会
2月			
3月		実技テスト	
家庭学習の仕方	<p>日頃から体を動かす習慣をつける。また、運動は保健の授業で扱うトレーニングの理論と関連づけて取り組むとよい。また、各種種目におけるグループ活動時の練習課題を見つけ、計画を立てて実践できるよう、日々取り組む。</p> <p>ノートの取り方など 時間走などの記録をまとめ、スポーツテストの個人評価の分析と併せて、自己の体力レベルおよび技術レベルの向上に役立てる。</p>		

教科・科目名：保健

履修学年・対象	1年	共通	1単位
使用教科書	出版社：大修館書店 名称：最新高等保健体育		
副教材 (授業で使用)	出版社： 名称：		
授業の目標・内容・進め方	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践法を学び、生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していく資質や能力を育てることを目標とする。前期では筋肉が動くメカニズム、酸素と運動の関係など身体と運動について学習し、運動実践に役立てることを目的とする。後期は精神と身体に関わりを学習し、心身ともに健康に過ごせるようにする。また応急手当を学ぶことで、命の大切さを学ぶと共に、事故防止や安全に対する意識を高める。とくに応急手当では心肺蘇生法実習を行い、全生徒が実践できることを目的とする。アクティブラーニングとして、グループワークやロールプレイングを盛り込み、主体性を伸ばす。		
課題・提出物	ノート・授業プリント、夏休み冬休み課題等		
成績評価の方法	各学期の中間・期末テスト80% 小テスト、課題、授業への取り組み等20%		
授業計画	4月	身体の構造【骨・筋系】	
	5月	身体の構造【呼吸器・循環器】【RICE処置】	
	6月	身体の構造【筋収縮のためのエネルギー供給機構】	
	7月	体力と健康【酸素と運動】【体カトレーニングの方法】	第2回試験
	夏休		
	9月	体力と健康【体カトレーニングの効果】	
	10月	精神と健康【脳のしくみ】【神経細胞】	
	11月	精神と健康【欲求と適応機制】【心身相関】【自己実現】	
	12月	応急手当【意義と重要性】【日常で起こりうる怪我と処置】	第4回試験
	1月	応急手当【心肺蘇生法】【AEDの使用法】	
	2月	栄養と健康【栄養と代謝】【健康的な食生活】【食事と運動】	
	3月	休養と健康【睡眠と健康】【効果的な休養】	
家庭学習の仕方	週1時間の授業であるため、授業内容を忘れがちとなるので授業の前日は、前回の復習をする。また、生活に密着した内容であるので、新聞やニュース等で、健康に関連の深い内容については、興味を持って情報を収集するとよい。特に、医療・看護系に進路を考えている生徒は、1・2年のうちから、新聞記事や図書を読んでおくと小論文対策となる。		
	ノートの取り方など <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の内容だけでなく、授業中に気づいたことはすべてメモを取る。 ・保健ファイルノート提出(年2回)。 ・体育および保健分野に関連した新聞記事をノートに貼り、指定されたレポートを書いて提出する(年2回)。 		

教科・科目名 : 音楽 I

履修学年・対象	高校 1年	共通	2 単位
使用教科書	出版社: 教育芸術社	名称: MOUSA 1	
副教材 (授業で使用)	出版社:	名称:	
授業の目標・ 内容・進め方	<p>【目標】 歌唱、器楽、鑑賞などの音楽活動を通じて、表現力を高めるとともに、豊かな感性を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢と発声法を身につけ、歌唱表現をする。 ・アルトリコーダーなど楽器の奏法を習得する。 ・多様な音楽を鑑賞し、音楽性を高める。 ・グループによる演奏や発表を通じて、協調性と表現力を養う。 <p>【内容・進め方】 歌唱、演奏: 姿勢に気をつける。曲中の用語などを確認する。 鑑賞: 作品について考察し、感想・気づいた点などをまとめる。</p>		
授業計画	4月	発声、「校歌」、ミュージカルについて	
	5月	歌唱、アルトリコーダー、鑑賞	
	6月	歌唱、アルトリコーダー、鑑賞	
	7月	歌唱、アルトリコーダー、鑑賞	筆記・実技
	夏休		
	9月	グループ発表(練習)	
	10月	グループ発表(練習)	
	11月	グループ発表(練習) 芸術鑑賞会に向けて	
	12月	グループ発表	実技
	1月	合唱、アルトリコーダー、鑑賞	
	2月	合唱、アルトリコーダー、鑑賞	
	3月	合唱、アルトリコーダー、鑑賞	実技

教科・科目名：書道 I				
履修学年・対象	高校 1年	共通	2 単位	
使用教科書	出版社：教育図書	名称：書 I		
副教材 (授業で使用)	出版社：	名称：		
授業の目標・内容・進め方	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの「書写」と高校の「芸術書道」の違いを理解する。 ・書による自己表現を試みる。 ・書体の基本的な知識を深め、正確な筆順や美しいスタイルを学ぶ。 <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の臨書を通して、基本を学ぶ。 ・作品創作を通して、書の可能性を広げる。 ・文化祭、書初め展などに作品を出品し、目標をもって創作する。 			
授業計画	4月	硬筆	各書体の古典作品を臨書しながら、用筆法を学ぶ。	
	5月	楷書	楷書行書の基本的な用筆運筆を習得する。	
	6月	篆書	隷書篆書の特徴ある筆使いを習得する。	
	7月	篆刻	自分の名前を刻し、創作に使用する。	
		夏休		
	9月	漢字	詩や俳句、四字熟語等を書によって自己表現する。	
	10月	草書	仮名の流麗な美しさと繊細な技術を臨書によって味わう。	文化祭作品出品
	11月	書初	小筆使いと小字練習。大筆による書初めの大字練習。	
	12月	拓本	手本作りの原点を知り、拓本に親しむ。	書初め展出品
	1月	千字	簡略化された点画、速度、スタイルを学ぶ。	
	2月	写経	般若心経を集中して書くことで書の精神を垣間見る。	
	3月	自由	一年間の集大成として、自己表現による作品を作り上げる。	

教科・科目名：情報・社会と情報（高入）

履修学年・対象	高校1年	共通	2単位
使用教科書	出版社：第一学習社 名称：社会と情報		
副教材 (授業で使用)	授業中に配布するプリントを副教材とする。		
授業の目標・ 内容・進め方	<p>以下の2点を目標とする。</p> <p>①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解する。</p> <p>②情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションする能力を養う。</p> <p>前期はコンピュータ操作の基礎を中心に学習する。特にタッチタイプの技術を上げることが目標の一つとし、併せて全国中学高校WEBコンテストへの参加に必要な技術・知識をこの時期に集中して取り入れる。</p> <p>後期はプログラミングに関わる内容を中心とし、併せて情報社会や情報技術に関する知識習得を目指す。</p>		
授業計画	月	学習内容	
	4	情報の活用と表現	
	5	情報社会と問題解決	
	6		
	7	情報社会のしくみと安全性	WEBコンテスト作品制作 プレゼンテーション
	8		
	9	情報通信ネットワークと コミュニケーション	
	10		
	11		
	12	アルゴリズムとプログラミング	
	1		
	2	総合実習	
	3		

教科・科目名：情報・社会と情報（中入）

履修学年・対象	高校1年	共通	2単位
使用教科書	出版社：第一学習社 名称：社会と情報		
副教材 (授業で使用)	授業中に配布するプリントを副教材とします。		
授業の目標・ 内容・進め方	<p>以下の2点を目標とします。</p> <p>①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解する。</p> <p>②情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションする能力を養う。</p>		
授業計画	月	学習内容	
	4	情報の活用と表現	
	5		
	6		
	7	情報社会と問題解決（問題とその解決）	HTML実習 WEBコンテスト作品制作活動
	8	情報社会のしくみと安全性 (情報社会の法と個人の責任)	
	9		
	10	情報通信ネットワークとコミュニケーション	
	11	コンピュータがはたらくしくみ	
	12		
	1	情報社会のしくみと安全性 (情報システム、情報社会と安全性)	プログラミング実習
	2	情報社会と問題解決	
	3	(情報化の光と影、情報技術と人間)	

教科・科目名：美術Ⅰ			
履修学年・対象	高校1年	共通	単位 2
使用教科書	出版社：日文 高校生の美術1		
副教材 (授業で使用)	出版社：		名称：
授業の目標・内容・進め方	{目標}版画、絵画、立体表現を3本柱にし、本格的な美術に取り組む ①版画(国際交流を意識して、現代社会のテーマを板に刻む)彫刻刀や、釘打ち木版画の技法を使い彫りを生かした特有の細密な世界でテーマを表現していく。 ②絵画(風景画)慣れ親しんだ城址公園の自然や校舎を描く。自然を良く観察し、のびのびと製作する。野外制作の特徴として視覚以外の感覚も大切にし、気温、風、音、日差し、空気感、生命感など感じる世界、空間を表現する。 ③立体、名画の世界を粘土で立体化する。彫塑的要素だけでなく、美術史の世界を垣間見ることで総合的な美術を学習する。		
授業計画	4月	木版画 ガイダンス 版木の準備 浮世絵など木版画の鑑賞	
	5月	木版画 下図制作 転写 釘打ち 点描の面白さを解説	
	6月	木版画 細かく打ちこみイメージを濃密に表現する。	
	7月	木版画 試し刷り、本刷り仕上げ	作品提出
	夏休		
	9月	風景画 スケッチ デッサン 彩色	増穂祭展示
	10月	風景画 彩色	
	11月	風景画 彩色	
	12月	風景画 仕上げ	作品提出
	1月	立体 興味を持つ画家、名画を探し、情報検索、、デッサン	地区展出品
	2月	立体 立体化へ 塑像	全日本出品
	3月	立体 塑像完了 アクリル絵の具仕上げ	作品提出